

平成30年6月11日

土木学会賞「技術賞(Iグループ)」

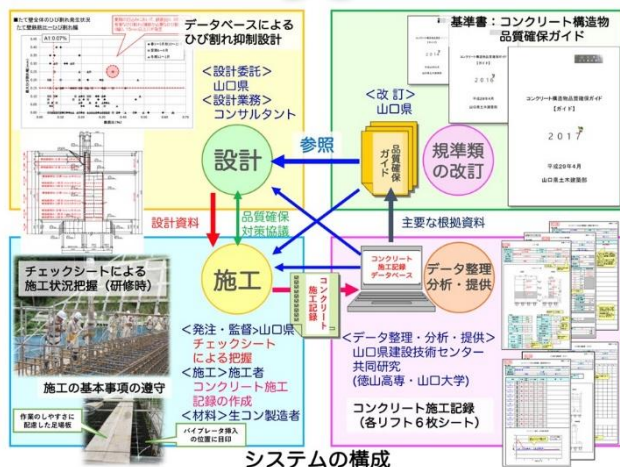
受賞報告会

受賞概要説明

土木学会賞「技術賞(Iグループ)」



山口県土木建築部技術管理課長 森岡弘道



土木学会賞

土木学会創立後6年目の1920(大正9)年に「土木賞」として創設されて以来、大戦終了後の1945年から48年までの余儀ない中断はあるものの、80余年の伝統に基づく権威ある表彰制度

平成29年度は、功績賞や**技術賞**、環境賞、論文賞など全18部門で計111件が選定され、平成30年6月8日に表彰された。

技術賞

I グループ (受賞 12件)

具体的なプロジェクトに関連して、土木技術の発展に顕著な貢献をなし、社会の発展に寄与したと認められる計画、設計、施工または維持管理等の画期的な個別技術。(いわゆる「ハード技術」のみならず、情報、マネジメント、ビジネスモデル、制度の導入等の「ソフト技術」についても対象とする)

II グループ (受賞 7件)

土木技術の発展に顕著な貢献をなし、社会の発展に寄与したと認められる画期的なプロジェクト

業績名

「山口県によるひび割れ抑制・品質確保システムの構築と展開」

受賞者

山口県

徳山工業高等専門学校教授 田村隆弘

徳山工業高等専門学校客員教授 二宮純

山口大学教授 中村秀明

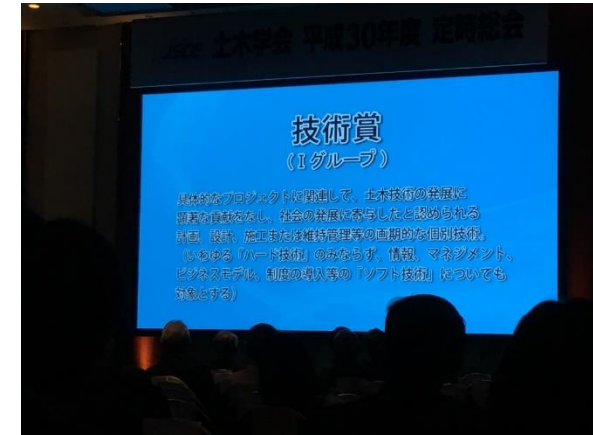
横浜国立大学准教授 細田暁



土木学会賞 表彰

平成30年6月8日(金)

(公社)土木学会 平成30年度土木学会総会



受賞理由

山口県において、土木コンクリート構造物に生じるひび割れの抑制について、産官学の協働で平成17年に取組を始め、平成26年には品質全般を向上するシステムとして構築した。

山口システムでは、施工の基本事項が遵守されるためのツールとして、「施工状況把握チェックシート」を開発し、施工由来のひび割れの低減、表層品質の向上を達成した。

また、施工記録をデータベース化し、データベースに基づくひび割れ抑制設計手法を確立した。

山口発のシステムが東北地整、群馬県に展開され、全国に展開する土台を構築した。

この取組が、永きにわたって広く参照される価値を有しているものと高く評価され、技術賞に値するものと認められた。

受賞者それぞれの役割

山口県

H17年度以来の山口システムの構築，改善。各地域のシステム構築の指導。

田村 隆弘(徳山工業高等専門学校 教授)

山口システムの構築，改善。H28年度土木学会重点研究課題(コンクリート構造物の品質・耐久性確保マネジメント研究小委員会)委員長として，東北システム構築へ貢献。

二宮 純(徳山工業高等専門学校 客員教授)

山口システムの構築，改善を主導。東北システム，群馬システム構築へ貢献。

中村 秀明(山口大学 教授)

山口県のデータベースシステムの構築，改善を主導。

細田 暁(横浜国立大学 准教授)

山口システムの改善，東北システム構築の主導，群馬システム構築へ貢献。
H28年度土木学会重点研究課題委員会の幹事長。

新設コンクリート構造物のひび割れ抑制および耐久性の向上について、山口県の産学官の技術者が主導して独自のシステムを構築されたことについて高く評価している。

よりよい品質のコンクリート構造物を造るこの取組が、今後、全国に展開していくことに期待している。

インフラは、国民生活や経済活動にきわめて重要である。土木技術者が豊かな国土に働きかけ、国民の安心・安全を守っていることを改めて認識いただき、これからも、誇りと自覚をもって取り組んでいただきたい。

土木学会会長 大石久和
平成30年6月8日 談